武江年表

839
8
62

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62

ガラス使用

武江年表巻之五

延享元年甲子　二月十八日改元

二月朔日より湯島天満宮境内ゑて下野岩舩地蔵開帳○同日より市谷八幡宮地主桑木稲荷社開帳○二月廿日夜子上刻天中央より少し西の方一如此墨現る奇瑞なりよ○二月より護國寺ゑて武州御嶽山蔵王権現開帳○同月より浅草寺内松尾明神開帳○二月十廿日より三日の習中村氏三郎芝居興行の初年より百二十一年の壽狂言興行○矢口新田祢仁廃の碑を立南郭文を撰ス○四月三日儒師山本北山卒　名信一　柳島法性寺ゑ葬

○前の朔日山王宮営建○四月朔日浅草ゑ光感ち尚麻製毛曼荼羅をねせーむ○四月より護國寺ゑ上加雄氷郡松井田金剛寺十一面観世音

根岸信蔵氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62

ガラス使用

雄水定光　守本尊　開帳　○（二月朔日より浜川八幡宮地内にて　八月十三日より田向院にて

夏より冬までも秋風邪流行　○六月十五日神道学者　岡田盤秋　卒　名正利称九郎　七十八才浅草小塚原に葬る　○七月朔日より田向院にて強飯を施行す　大佛殿発願開帳　○七月

九八幡宮内氷室の社開帳　○七月朔日より芝神明宮内にて石根光明寺

十一面観世音　俵藁太守守公　開帳　○七月九日書家　山本惟命　卒　称宝　三田竜泉寺に葬る

○七月晦日俳人　中川宗瑞　卒　幡随院小塚原に葬る　○七月海中魚多死生簀の魚も

皆同じく死せり　○八月八日風雨不動の大磯切通し　梅林寺　身代地蔵尊開帳　○九月廿一日　山谷町　本性寺自雲霊神　忌日の小濱若衆といふ人江戸より新川の商家　岡田某が生母なりけるが心ざしある故其家を終しめて孫右衛門と改む法花を信じて常に読経唱題して三十八年をそうまふるまゝ　ましく死後称名を唱つゝ人を救んと願ひて終るよりて秋山自雲霊神と祭る　○九月廿七日　金雕之土仏　安親　卒　七十九才　通称弥次八入名にて東西といふ

○釜師　浄林　卒　月日　不詳

二月朔日より　茅場町　薬師　焼肉まで信及蓮池院諏訪本地勝軍不動尊開帳

○二月廿日亀戸天満宮近隣の在家より火出て元祖信祐が建立せし社数十宇

悉く焼亡せり　○二月より　渋谷長谷寺大仏　観世音　御前仏開帳　○閏十一日

より田向院にて上州　狐塚山　正法寺　観世音開帳　○二月十二日朝五時巳下　落雷より

火出て青山残らず　猶国森本村　氷川社　谷福寺門前　広尾白金村三田伊

四国白金瑞聖寺　猿町　車町　宮益南小路　川越焼亡　武家町屋敷　焼亡也　翌十三日

鎮まる　湯如来寺　立ける　供唱が作　大六の仁王尊　九石像　其地荒増の石像も

焼亡せり　方々　白金細川家　辺の百三十年目　その新焼と云ふ　○四月朔日より　浅草　雲和寺

五色常陸小金井　勧進　日蓮上人開帳　○月日より田向院にて　摂州　茶碓山　薬師一

体　丈六　円光大師引接弥陀如来　開帳　○月日より　牛迎　四箇寺にて　相州　妙伝寺　堂

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

降梅日蓮上人像開帳〇同月二日より本所きっ同大佛勧進不
動尊開帳〇同月二日より本所きっ同大佛勧進不動尊開帳〇四月より護国寺
世音泥洟如来開帳〇四月より護国寺蟹清水出現薬師自坊まで開帳〇
四月十八日書家関口黄山享 名忠貞 小日向金剛寺に葬
谷寺虚空蔵井田向院まで開帳〇四月六日より茅場町薬師門まで相扇舎
同山坂東七番目聖観音開帳〇八月十九日大風両国橋辺竜巻なり〇九月十
四日大風家屋を損ず 浅草福井町銀杏八幡の 〇十月十日儒師長沢東海享 名五字元丁 称川流祖の裔
銀杏古樹次折る

延享二年丙寅

二月朔日より隅田川木母寺梅若丸古墳 文殊菩薩開帳〇同日より雑司ヶ谷
本納寺のそわ州系教寺休息日蓮上人開帳〇二月廿九日夜四時分薬地本郷等
昭武家方より出火しこの辺武家方一帯本郷八町堀本八町堀茅場町小網町大

坂町堺町葺屋町芝居町堺町堺町北辺武家方多焼町浜町明神町末沢
町本所小泉町横網町松井町相生町竪川辺武家方浅草より小塚原まで延焼
聖観日夕七ツ時鎮る 浅草なる八宗例の 坊舎のこと未詳焼る 〇二月晦日昼本所割下水
風上辺の寺院多く焼亡〇三月より浅草寺門前松葉院大六観音堂天暖薬像開帳
〇書家赤井得水卒 称文次郎 伊勢町住 〇四月朔日より増上寺常照院 芝浦出現
泥洟如来開帳〇四月より湯島天神内天
王開帳〇下落合某王院釈迦如来開帳〇四月鳥丸光業公関東下向の
道の記あり 名なき 一巻 〇浅草池の坊善寺より駿河蓮永寺
日蓮上人鏡影開帳〇同日不動尊境内より
〇中延永町経王寺より京上多羽実相寺雨乞日蓮上人像開帳〇六月十
八日より六月十八日迄 三十日 浅草寺観世音開帳〇同廿六日より御蔵前大護院

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

八幡宮の地愛染明王圖幅〇六月十四日僊師藤江邨良華　林洞院西久保光明寺の末〇七月朔日より雹降ること半時許〇七月より本所御蔵前通り新鋪勧学寺川上某師如来圖幅〇七月十日秋澤章弼池田利英紀伊国屋政助等の三人淺草川を網を打て一寸七分の不動尊の像を得たり大同二年空海と彫り谷中妙林寺の安置ス〇九月芝神明宮并に西東叡山寛永寺天満宮等某寺の天満宮像を拝せむ〇九月朔日より谷中大系寺の大黒天圖幅〇十月谷中彩雲社別当成就院華嚴堂方丈撞鐘その外とも焼亡〇事記合考写本成物徂来　茨城二巻

〇江戸名勝志摂刻　茨城二巻

延享四年丁卯

二月朔日より淺草寺の門梅園院子齊仁王尊の容像圖幅〇二月九日外桜田大手諸侯の藩邸数拾九十字と云〇淺草寺本堂の天井に龍の画を新に画かる〇四月朔日大霜降つ

彩雲寺町幸法寺の老安房守奈小松原源恩寺の日蓮上人像容像〇牛迎七軒町久成寺の孩児地蔵尊本日蓮上人像容像〇二月朔日より谷中一雲寺の子安鬼子母神圖幅〇小谷法養寺の甲冑勝軍地蔵深川経王寺日蓮上人圖幅〇三月悪虫厭除弁天祭礼と云〇四月朔日大霜降つる〇四日より深川永代の大坂御城預りの生玉明神圖幅〇四日より谷中妙法寺の中山日蓮上人像圖幅〇四日より廿日迄押上実蔵寺の賢菩薩圖幅〇三田寺町林泉寺の奥州安部貞任宗任の首并に牛迎并楽坂弁天等の親世音不動尊圖幅〇小石川若雄寺の引接地蔵尊圖幅〇富坂正覚寺弥陀如来圖幅〇猿江弁成院社内弁天并北隣より移る猿江弁天社内中元の猿江弁天〇六月十七日僊師菅野兼山華　十年忌谷中妙林寺の墓并に名主書〇六月二日僊人小川破笠華　八十余名家有称号俳諧等の画讃又筆跡をかゝりもの数百枚を摘て表装せり〇六月廿七日僊人玖曲庵逸志華　七十三名沙汰書報恩寺中

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

宝祚の栄へ　○六月廿日太宰春台卒　八十八歳　称弘安　谷中天現寺に葬る　○春川秀蝶発起して社へ植園
舎細園の額を掲ぐ　○浅草大護院八幡宮修復成の事三年の日時吉日を以て
の寄進被仰付　○七月朔日より回向院にて羽州湯殿山注連寺大日如来
開帳　○同日より回向院にて上總岡小田喜大黒天祠開帳　○十月廿日俳人菊岡沾凉卒　六十余才　名房幻号　米山崖下菴称菴
なやみし　俗諺志を外菴述多
しるせる有益の書　男政述恒足軒と号ス

此年間記事

真先稲荷社延享二丙年のひより諸人多く詣集せり　○谷中五重塔の木鼻
○風閑る　南山派修験　湯殿天狗中坊より聖堂役へ移る
○延享二年の夏江戸の流行物を集めるる句集の内時津風と歌ひし時に専門人及
故称果然とりくる人の編ニ　両ハ寿合　ヒ同じ　探て目次のごとくしるす

△浮塵子　遠糸の山水也　△雅司谷令式帥物　△門前百度参　△門風車　△志道軒講釈　△中野
桃園　△写ゞ居吹矢　△千子屋売薬　△香具　△女商力　△紙屋文良売場　△辻宝ゟ
象股引　△券商力　△大名使紙　△警蹕道石　△竹村煎餅　△五衆稲荷　△高田帯
△雷鶏と伝相撲　△芝鉄切形　△赤坂奴　△珍重せし　△回向院子供雪　△辻の物相屋　小間物
花廿日牛迎白とヤベ　△海老蔕蛤妻　△栄松斎梅鶯　△下総子ゟ始や売れ薬　牧童
松の下雨花と云唄参あり　土
△陽高油揚　△伊四子鮫　△霞面沢中　△山下敬称　岡中お花ゟ始や売れ薬　牧童
妓の新名
来考
△中村座賀狩　衣裳
△漱川帽子　△菓平楊　△易倹純　未詳　△自来焼義　△鞍迎坊主　拝
△島越口醤　△巻鬢　古代の風俗也　△豊後節　△大名極印　△神田社
酒うり　△芝菜　若芝ふやくや麹の
△廣澤石摺　△豊後節　△大名極印　△神田社
茗の着　△羽織長袖　△江戸川植木　△杜言仏若陣打治云場　△熊野十二所

△涼珉大墓　新堀や二ノ割ろくとなさん山狩野遺信涼珉の墓水戸の画師なり日の出大墓を画くお名あり

△馬子凧　△扇座敷　丸く仕角紙凧角菱あとは形色々有る者其の表裏を色々中そうつくしく洒落う

地蔵菩薩　二分奴法安る　△懐紙折　通り新石町　金川善九郎　△牡丹灯籠　常楽院う

なれども繁けれどもぐく

○婦女の物ざしとのよ物始る後一旦廃れ一ト寛政より再度行る○郡内微塵縞衣類也る○江戸名古佐名犯其節木の様甚居ありしぐ

次第ふ廃れ大阪の義右之通とのめり

寛延元年戊辰　十月閏　七月十八日改元

三月二日夜谷中瑞林寺より出火本堂庫裏塔頭門前迄焼亡○三月十八日より魚籃観世音開帳○門前茶屋塔頭門前迄焼亡○三月十八日より魚籃観世音開帳○門前茶屋

三田慈眼山泉福寺某師開帳○門廿日より魚籃下大信ち現世安楽願

門前廿五日宮醫曲直瀬君瑞卒　六十三才養安院と号ス　麻布光林寺ふ葬ル

温々卒　三十八才

○四月朔日より回向祐天寺弥陀院ふ来霊宝開帳○門前より

永代ら八幡宮開帳○二本榎兼敬ら祖師開帳○浅草日蔵ら布施田向院

ふ而ら新ら仕ル奥州金津西光ら日限地蔵ら開帳○六月朝鮮人来聘　正使洪啓禧

副使南秦従事曹命采旅館東本願寺ふ有り

真柱金啓井と号ス人浅草ら溜ら雲の嶺ら写す

市谷長国寺ふ葬ル　○閏十月廿一日俗人堀内仙鶴卒　七十四才

○奥澤村浄名　九品仏　焼失

同二年己巳

正月廿三日長雅流茅道祖岩雅耕雲卒　六十二才林中寺ふ葬ル

山義将卒　号杉岩林と弟云婿　浅草杉海威光院ふ葬

慢死ざよりて先ら去る

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

○深川海辺新田・古川茶所如来・安養院・浪川寺水月観音・三の輪慈眼堂・観世音・
秋葉権現・四谷弦巻成院・鼠踏地蔵尊・清光寺閻魔大王・浅草寺内
日吉院蔵澤不動尊・門松雷除大六天大権現・本尊・池の妙音・妙見并・
不思池弁才天・文政九戌のとし造立之納む弐年より発下迄・谷中長運寺祖師鬼子母
神・三囲稲荷社・隅田川弘法大師・門前海中不動尊・右社内境内居村の開帳之
○木母寺梅若丸二十七年忌千日供養○三月九日ゟ田向院ニ於て常陸國河内郡
大徳村宝積寺子安弁才天開帳○四月朔日ゟ五月晦日迄田向院ニ而二河
玉山中禮材法花ヲ出世観世音開帳○四月十九日ゟ六月二日迄寂戸妙義山
権現開帳○六月廿日羅漢寺中奥之院先和尚寂・七十二才・○六月四日北村湖元卒
(谷田宗旦ノ養父)○七月朔日ゟ田向院ニ於て信州善光寺如来開帳○
七月も晦日ゟ八月廿日ゟ雨降続き八朝大風起り昨廿日の暁ゟ雨降八月十二日の暁ゟ小風大
嵐ニなりて半迎小日向出羽下谷浅草辺迄海を出し国領辺迄水を流し人家
溺死江戸川通り抜く押流し小石川通大水神田上水樋通流を留平橋辺
迄橋ヲ流ス并田川抜く流る西國橋大橋等危し(水不浄ノ水ニ而ノ)九月ニ
いたり漸晴天となる○八月光物飛ふ○雑司谷鬼子母神境内ニ孝女くわと
いふの麦藁ニ作る菊ニ雀獅子ヲ売り始む○十月十八日茶人望月服
宗井卒(号ス浪影淀橋ニ住)○新著聞集十八冊刊行(中古世の平の噂種ヲ
拾ひ集むるなり)○今年江の
島弁才天本社ニ開帳ニ而江ノ島ゟ東海道の
繁昌ニ及ぶ

寛延三年庚午

二月十五日ゟ下谷宮岩地蔵尊開帳
○三月十八日ゟ晴天十五日前迄橋御門外晶地ニ於て信州善光寺如来
御出開帳ニ而江戸中の老若男女参詣

鼻あり○房州加茂村日蓮寺祖師洗ひ
七月廿三夜愛宕山の釈迦如来開帳○日暮里本行寺の道灌丘碑を立築波山人
石山猿文を撰む○四月廿三日朝暴風八ツ時迄西小大風西大暴雨
亀之宮と注せし小川町嶺町八十久伝馬送外勅進能興行
能興行を興行○七月十七日儛師中尾廣徳卒 称西窓西窓
天徳寺葬ル○七月より田向院にて明州
信云寺不動尊開帳○七月より浅草寺観音
弘智法印像開帳○七月七日儛師井戸甘谷卒 称西窓西窓
儛師井戸甘谷卒 称西窓西窓 日暮里三河屋ヨリ葬

此年間記事

延享四年三月のころより不忍池彩色築地岸
法ゝぬ蓮開し又寛延二年春より天の島より西芽町の裏一枚橋を架し折よし
て架ゝおふうつて八ツ橋と伝へ八ツ橋といふ名起る池の鯉多く死亡
[redacted]

[redacted]
[redacted]
[redacted]

水下川浄光寺某師如来開帳○同廿二日より平井村熊野社にて成田不動
弘法開帳○四月朔日より浅草報恩寺釈尊よし人運物にて報せしむ○同日より
浅草寺町二天門院柳稲荷開帳○同日より田向院にて甲斐善光寺阿弥陀如
来脇立観音開帳○京都本満寺祖師谷中妙法堂にて開帳○芝金杉
増上寺七面大明神開帳○大師河原○浅草寺町□□にて依波塚不授本尊祖師開帳○
開帳○四月朔日より湯島社地にて鉄父子権現開帳○同日より四谷
若八幡宮にて豆州加茂郡最勝院釈迦如来開帳○浅草寺町□□にて依波塚不授本尊祖師開帳○
院にて臨会永谷真昌院天満宮開帳○谷中妙林寺不動尊開帳
○不忍弁才天にて常陸水戸玉里邸御所持
詩人盆団崖楼幸　名伯譲本町江戸屋清右衛門と号す
白石の門人なりと云ふ

荷田在満東都に卒　年七十余　私家義とふ江戸ふおいて玉学を教授せ
小沢ト天幸　浅草の墓地に葬ル　本龍寺の中
○吉原女芸者といふ事の今年より始る　廓内の
○再訂江戸惣鹿子名所大全梓行　奥村玉華編　七冊
江戸地理沿革の図各一枚明和二年の
追考を合て一部とス

宝暦二年壬申

正月四日物故　家丹羽正伯卒　丸山本妙寺に葬ル　○二月二
○二月廿二日より中の町如意輪寺聖徳太子宮開帳○二月廿八日より天満宮八百
十年新写○四日より湯島天満宮・麹町平河天満宮・小石川牛天神・巣鴨
小茶町天満宮開帳・亀戸天満宮へ今年社建立成て二月十九日より廿五日まで
開帳○二月廿八日より同所不動尊開帳○三月朔日より湯島社地にて伊豆

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

八丈島 為朝明神開帳 ○四月朔日より 飛戸郷 嶽山権現 業平天神 南発院
吾妻森 吾妻権現 飛戸 善門院 正観音 木母寺梅 名のある文殊井 飛
戸竜眼 ○中嶽権現 秋葉宮 右何れも自坊より 開帳あり ○四月朔日より
回向院 そ京 知恩寺 回光大師 利劍名号 開帳 ○同日より 半迎 京町妙仙寺
ふく房 及小溪 誕生 祖師 開帳 ○九山浄土 祖師谷中 本寿 祖師
開帳 ○四月々 麻布光雲寺 大師 河原浅宮院 地蔵 井戸 開帳 ○四月より
目黒 福院 誕生八幡宮 開帳 ○五月深川三十三間堂 修 ○六月廿二日々
池の端 数珠坂 善養寺 十九軒 家 秘仏 開帳 ○七月朔日より 湯島 社地下野那須野 泉渓寺 殺生石 化度聖観音 開帳
○同日より 回向院 武州 羽生 不動 開帳 ○八月二日夜 永代橋 北の方 永代橋 落ち
○七月十五日 儒師 中西淡淵 卒 年二十七名維 章称号七弁 ○同月十日 儒 文子 卒 年七十

弓丁 伊勢屋平右衛門の娘 ○七月 墨陀川 千住 大島 ゟ 出 四足
入て 国学 和学 ふ名あり 深川本誓寺 葬 ○
除 ゟ 二の 長サ 二尺除 ゟ 外方 ゟ 初 ゟ 出
泣声 あり 何 ゟ 初 ゟ 出 ○七月 護持院大僧正 隆光 没 ○
○八月十二日 山縣周南 卒 年 字 孫 少助
千住 本保福寺 ゟ 葬 ○ 高井 士常 光 ゟ 向 ゟ 引 ゟ 後
昭和二年 杉秀寺 ゟ 改 ゟ 移上人 宿 ゟ 寺 ゟ あり ○十二月 琉球人来聘 正使 今 ゟ 仁王 ゟ

宝暦三年 癸酉

正月四日 大雪 八日大雪 九日十七日十八日 大雪降 六時 晴 ゟ 曇
二日二日 五日九日十日十二日十四日 雨 十六日 地震 十七日 雨 十九日 大雪 廿日 晴 ゟ
廿三日廿八日廿九日 晴 ゟ 雨 三月三日大風 雨 暁七時 ゟ 雷 ゟ 大雹降 六時 晴 ゟ 曇
候 ゟ 処 ゟ 大江戸 秋葉 ○二月朔日 ゟ 初 ゟ 迎 回 赤 不動 開帳 ○同十六日 ゟ 護国 ゟ
甲州 万力村 帰命院 信玄 ゟ 守 ゟ 像 ゟ 秘仏 来 開帳 ○三月十六日 甲州 身延山 祖師

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

屋根は升江戸到着の日迄ひの人数品川より日本橋迄つゞく何町構中と書す

筵幟あり（国振様中ゝ様）四月朔日より深川浄心寺にて開帳

○三月十三日より九月晦日迄薩摩外記祭をそかゝり人形芝居奥村座本小舎

小四郎之○四月朔日より湯島社地にて武州一の宮氷川明神開帳○同日より

回向院にて武州秩父郡蕨谷村泉龍寺如来蓮生坊新開帳○四月十日より深川永代にて

大師新開帳○四月十日より深川永代にて奥加金花山弁才天（大金）開帳（教祖甲

蝸蚓と称む細工人八幡町数雀甲やもり）右長根海老六月二日より十一日まで本母にて開帳あり○四月より

九月末迄麻疹流行人多く死す○五月十二日

○六月哥舞伎芝居当我祭今年より始る○六月廿日雨乞祈願不動

卒　九十二才立羽千翁と云薬地の名産にて城勝ちの茸を

辞世　空ゝみもりもの裸よ戻りけり　○七月朔日より浅草本法眼の

祖師開帳○同日より護国寺にて武州多我中村足立山祐信院弘法如来

不動尊開帳○同二日より（八日迄）芳場町某師境内より大坂天王寺南谷宝泉

庵寺聖徳太子（来年）開帳　○八月廿一日書家

卒林淳信卒（六十八才号静安浅草日蔭町提灯屋安助

本所中之々妙源寺に葬る）　○十月谷中鎖雲寺舎弟

始む（当正三世日享上人穂る所より此年

上人二十三回忌ゟ両ゟ葬ゟ式ゟ執ゟ行ゟ）

宝暦十二年甲戌　二月閏

正月廿日萩生叔達卒（名観号北渓祖来の家中之

三田長雲寺ゟ葬ル）　○閏二月三日より氷室明神開帳○同回向院にて奥州会津高巌寺開基大師開帳　○

閏二月三日より五菩薩八幡宮内にて越後乙宝寺大日如来開帳○閏二月ゟ

永代寺にて築地山本地観世音開帳○護国寺にて観世音開帳什宝を陳せしむ

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

○三月十六日儒師荘子謙卒 名光益 号琴台 浅草海禅寺に葬る ○四月朔日より南都西大寺釈迦如来開帳 ○四月廿五日儒師谷口千秋卒 称多膳羽迫 ○五月三日儒師古屋鬼直卒 号琴台 浅草海禅寺に葬る ○六月廿五日能人櫻井吏登卒 浅の雲中者 ○幡随意院の門の額和尚谷中三崎に葬る 賢山法住寺開創 其北の溝より江戸中の男女泥形の土仏を運び出すのよしにて放生す 世俗新幡随意院とあり ○七月廿二日深世倫師羽川珍重卒 年余七十 此のもの東田に葬る 号芸洲 辞世 おもしろの ○八月十五夜閨の自在庵祇徳卒 押上大雲寺に葬る 辞世 空さえてよもすがらなり ○十一月廿七日能師刹月蝕 皆既 ○八月十七日儒師石島正猗卒 号静斎 称二八 麻布に葬る ○十二月改暦頒布 宝暦五年乙亥

二月朔日より谷中妙法寺にて五山玉沢法花会 祖師開帳 ○三月より護国寺

多く常州 [redacted] 義名を不動尊開帳 ○三月朔日より吹日迄牛込の社地修覆成就と牙開扉 江戸絵不出 修復あり ○三月十三日より谷法善寺にて上本門寺旅立祖師開帳 ○同月十五日より千九日まで回向院にて明暦丁酉山月焼死溺死の輩百年忌元禄法事あり ○三月十六日より深川永代寺にて信州戸隠の神九頭龍権現 顕光開帳 この内神子男女の交えあり千名をお免と 吹聴のものを信ぜざるべからず旅立ちとり次第より始まり ○同日より浅草降魔大字利剣名号 法華十二万 様三万 法華お尚の筆 朝日如来開帳 ○芽場町某師門弟大山の薬子易親世音開帳 ○四月の比より下総古尾の里楽物の道より弘法大師の利益あり 某水涌出るとの風説を信じ貴賤群集して此の水を各々に或は内へ壺ぐ九月迄に彼地より旅舎へ千駄程を引き又石に文字現ず石より芽を出だし流言して江戸市中の往来路を塞ぐ程のあり 翌年に至り止む ○四月朔日より回向院にて小金東漸寺開帳光大師開帳 ○四月より

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

青山善光寺隙地ヘ出来開帳○江ノ島上の宮弁才天開帳江戸より来詣多し○八月十五夜雨成ル月蝕云分○冬来價貴頃を○十月儒師龍雪逝ル（名湘浅草善龍院ト称ス）

宝暦六年丙子　十一月望

正月十日新我木町より出火吉座芝居丸焼○去年冬より来價八分ノ上ゲ○二月朔日より牛込久成寺ヘ上総国埴生郡妙寛寺日親延生堀経読祖師開帳○同所ヘ彼岸中加賀白山神影釈迦仏舎利開帳○唐筆注虎画を掲ル○三月中　契丹吹続き度く大変ス○四月朔日より回向院ヘ安房国那古ト（坂本二十番）観世音開帳○四月六日より目黒成就院鮫ヶ橋開帳○同月より東叡山ヘ常陸国茨城郡稲田山西念寺宝物をおせしむ○同月より谷中修性院の庭今年より開き奉遊観の所とする

○七月ノ谷玉泉寺ヘ佐渡一谷妙照寺祖師霊像○十月谷中修性院の庭今年より開き奉遊観の所とする

○同十月廿日儒師小出三山卒（名宛之称義平）

○十一月廿三日暁八代洲河岸より出火大伝ヤ〻ヘ拡長蔵邸数宇焼亡山下町加賀町熱田神社尾張町辺出雲町金六町辺汐留木挽町三十丁目仙台邸ヘ延焼ス

○同日夕七ツ時ヨリ青山権田原より出火ス

雨本邸ヘ延焼ス○同日夕七ツ時ヨリ南小田原町海手辺焼亡

より出火ス麻布辺二本榎三田の方まで焼亡○本々新町家ハ此辺ニ多シ

ク崩レ○ものと呼ぶる菜蔬を売ル小供ノ町売ヨリ汲ム料理

八幡宮境内ヘ勧進興行ス

○同十月廿日儒師弘法大師八幡大菩薩開帳○六月東叡山仁王門前再建成○六月両国川開ス

廿日俳人雨夜庵破成ル（牛島弘福寺ト称ス）

祖師霊像○十月谷中修性院の庭今年より開き奉遊観の所とする

○同十月廿日儒師小出三山卒（名宛之称義平）

○十一月廿三日暁八代洲河岸より出火大伝ヤ〻ヘ拡長蔵邸数宇焼亡山下町加賀町熱田神社尾張町辺出雲町金六町辺汐留木挽町三十丁目仙台邸ヘ延焼ス

雨本邸ヘ延焼ス○同日夕七ツ時ヨリ南小田原町海手辺焼亡

より出火ス麻布辺二本榎三田の方まで焼亡○本々新町家ハ此辺ニ多シ

ク崩レ○ものと呼ぶる菜蔬を売ル小供ノ町売ヨリ汲ム料理

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

薬屋を出し女を抱て卯を売らせる世人大根畑とよびみくせを

宝暦七年丁丑

三月朔日より芝神明宮境内ならび近辺多賀大社開帳〇三月より上野清水観世音開帳亜ノ雲仙寺尚徹上野清水観世音開帳〇三月十日より辛日川に善光寺如来開帳本堂修覆今年成就せり〇同十五日より不忍弁天開帳〇三月より目黒行人坂大円寺にて武州ぐるま幡随院長兵衛金剛寺の大黒不動尊余一丈開帳〇江戸勧進より田向院ならび安房清澄の祖師虚空蔵并開帳〇四月朔日より回向院ならび越後の国善導寺善光寺如来開帳〇四月より浅草九品寺地蔵菩薩開帳〇同日より目黒行人坂大円寺にて武州ぐるま幡随院長兵衛金剛寺の大黒不動尊余一丈開帳〇江戸勧進より田向院ならび安房清澄の祖師虚空蔵并開帳〇四月朔日より回向院ならび越後の国善導寺善光寺如来開帳〇四月より浅草九品寺地蔵菩薩開帳〇永代ならび赤山金連寺深川地蔵菩薩開帳〇四月より立川延寿

浅草報恩寺の内八宝寿坊大信ある宝物を拝せり○浅草谷立ち況
佐渡國府松実相寺朝日祖師尊像○牛込東町専光寺小て駿州沼津
妙海寺祖師尊像○麻布某教寺の小て鎌倉松葉谷妙法寺祖師尊像
毘沙門天開帳○市谷八幡宮内より遠州濱松大福寺薬師如来開帳○廣尾天現寺
○湯島社地より比叡山坂本来迎寺泳院如来開帳（理趣仙人の作）
三月十日夜巳の半刻より未明大川端迄焼亡の時猪火○六月一日連哥師里
村昌迪卒（五十）○八月六日鮫洲海晏寺の親世子尊像
古暦便覧再刻（未師ふるき考証を安永五年迄ふ図月本式出ふあり）○十一月深川霊雲院御開帳（岡山放光寺の本堂山門珠稿荷社ふ外悉く成就ふ）
宝暦九年己卯　七月国

三月十日より回向院より出羽湯殿山本道寺大日如来開帳○二月徳本小屋ふ火災ふり○三月十三日より浅草寺の本ふる尊像ふ拝せり○二月十七日御人岩本乾什卒（満八十三旬ふ）
ふ卒せり○○三月十七日御人岩本乾什卒（満八十三旬ふ）
るい氏乾什多ふ世ふ伝ふ本ふ書ふる住ふ志ふ記せうおのれが声曲歌集ふも永遠ふる徳一つこの氏死後の坊正叶為氏の祖ふ叶為正朔と号し俳諧を乾什ふ学ん
て叶狐人と号氏氏乾什の世ふ移ふる
衣白ら混ふ一ふりのふりといふり○三月十五日より本郷弥生
松寺宝物川越の名号ふを拝せり○二月川越明長寺石観音開帳○芝
金杉園珠寺ふて千住日蓮ふる鬼子母神（清正ふ彫）開帳○四月八日より本所弥勒
薬師如来開帳○同日より下谷法養寺ふて猿倉比企谷妙善ふる祖師開帳○四
月十五日より廿八日迄鬼子母神義山権現開帳○浅草観音堂又ふ田薬師ふ
ふく奥州御洋虚空蔵并賓頭盧ふる者開帳○米穀豊饒ふり○六月廿日
服部南郭卒（七十七才名元喬称小右衛門号白川東海ふ姓荻ふ林院ふ
葉ふ男惟良惟恭ふ父小先ふ七卒ふ）○七月朔日より麻市

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

善福寺親鸞上人ノ像開帳○同日浅草玉泉寺ニテ相州星降天拝祖師
開帳 星洋妙純ト云ヒシ三尾村ノ天刀ヲ
彩祝ス停止ノ○八月十五日高田宮八幡宮祭礼ニ練リ物ヲ出シ其後明和ヒ
年迄續ク○九月十六日駒込神明宮祭礼ニ練リ物ヲ出ス○九月晦日浅草明和尚駒込寺
華嬰姫湯殿ノ為ニ招聘ノ命ヲ僅ス 明十二年
又命アリ○九月晦日浅草玉泉寺ニテ相州星降天拝祖師
不寂ス 法州ヲ去リテ会仏ヲ進ム帰依ノ道俗歩ヲ一ニス九品寺ノ住職トアリシ後尚ホ存セリ其間上
人得阿弥陀仏ト号シ[illegible]ノ頑徒ヲ[illegible]ノ宝暦ノ年表ニ
[illegible]ト云フ文字ニ[illegible]ノ名号ヲ[illegible]ル一字ヲ二万倍数ヌレバ十二万倍数ヌレバ
川除川ヲ始メ講祝アリ法会ノ大衆都鄙ノ貴賤日毎ニ群集シ其他
七仰ぐ 授師ハ東海ノ孫ノ人ノ明和五年十二月十一日化寂アリ八十七歳ト云
門前松荒ル其旧跡ヲ神機独妙禅師ト諡ス

寛延十年庚辰

二月二日日蓮祐天寺ニ於テ祐海上人霞名愚蒙
号指蓮社信阿○二月七日夜八ツ時来坂

今井谷ヨリ失火シテ麻布辺日ヲ蔽雑色十番組坂三田寺町伊予西坂ヨリ
田町赤川海手ヲ焼ル○同月六日戌刻神田旅籠町壱丁目明石屋ト云ル呉服屋
ヨリ出火乾大風住吉町辺ノ半ヲ及ビ浜横丁辺ヨリ霊巌島新川辺深川一帯洲崎本場ノ辺迄焼亡世ニ云ル黒焼失永代橋彩大
橋ヲ焼ル七日巳刻鎮火○同日芝神明ノ末社ノ大好爺ノ向湯屋ヨリ出火濱松町庁門
前金杉芝田町辺半芝海浜迄焼亡○三月十日ヨリ四月六日迄六阿弥陀
不残開帳汐碁并千五十年忌○市谷八幡宮甲冑神像開帳○王子稲荷
社地ヲ越後高田寒日山 縁信ル
国稲荷従来寺国光大師開帳○糀町八丁目ニ法ルヲ総列住舎松林ル千ヲ親
世ヲ開帳○四月廿八日英一蝉卒 深川法禄ヲ中
事竜院ニ葬 ○五月
二日書家猴渓半霞卒 本所元町
三叢ニ葬 ○九月十九日鳴島風郷卒 名信遍字信徳称ヲ統
七十二ヲ事ヲ法ルヲ葬

○十一月十日儒師稲葉迂斎卒 七十七 名正英 称十左衛門 竜光の父 襲す 男七黙斎といふ

宝暦十一年辛巳

正月廿五日圓光大師五百五十年忌○二月朔日より菜畑町某師門にて信州高井郡金脇村不動尊出山釈迦如来開帳○三月朔日より浅草善立寺にて甲州遠光寺日蓮上人像開帳○三月十二日より木下川某師如来事業修復後生菩提開帳○四月十日より本所法恩寺にて釈迦佛立像開帳○四月朔日より回向院一言観音寺開帳○四月八日より十七日迄新吉原仲之町妓女廿人井楼供養○四月青山善光寺阿弥陀如来開帳○三囲八幡宮開帳 綱が倉礼として○雲巌島円覚寺 実宝尓也 作○梅幸稲荷社某師如来開帳○四月廿日より浅草玉泉寺にて下総国塩谷法宣寺祖師開帳○浅草唯念寺にて下野国高田阿弥陀如来 善光寺 一躰分身開帳

○青山久保町 宝徳寺十一面観世音開帳○千駄谷八幡宮にて武州入谷鬼子母神開帳○四月十五日より相模江の島弁財天開帳○六月金剛王大津尊勝寺 中村勘三郎が芝居の楽屋焼 勧請中なりしと不慮○九月三日官儒林大学頭 名明遠 称深蔵 谷中より林氏を冒す 辞職 式年にて世々勤むる所なり 弥陀ヶ原向て中ほどなり 車還三号弥陀如来開帳○九月俳諧師慶紀逸卒 享年八十 谷中竜泉寺に葬る 小墓あり

岩屋弁才天開帳江ノ島より来 繪多し○○九月廿七日火燈町葬礼町焼 中村勘三郎が芝居の楽屋焼 勧請中なりしと不慮○九月三日官儒林大学頭 名明遠 称深蔵 谷中より林氏を冒す 辞職 式年にて世々勤むる所なり 弥陀ヶ原向て中ほどなり 車還三号弥陀如来開帳○九月俳諧師慶紀逸卒 享年八十 谷中竜泉寺に葬る 小墓あり

七月儒師井上蘭臺卒 名通照 称嘉膳 落合兼雲の墓

○十一月廿八日親鸞上人五百年忌○同月武村長泉律院開創営宇落成 二寺山を

大僧正成巻大雲和尚浄土律の一宗我創せんとの志願を遂ぐる主教京上人力を勤む終に成就するの時住職等寂後門和尚の法統のまえあり 法嗣の師業状記一巻 棒げあり ○十二月晋金剛王稲川直光卒 称文四郎 家禄弐百俵

同 十二年壬午 四月閏

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

二月日本橋南町ヨリ焼亡○四月より東本願寺ヨリ常陸國水戸磐船山弘
入寺宝物ヲ洋セラル○同月より深川浄心寺ヨリ甲乃小宝妙法ヲ祖師開
帳○同日より田向院ヨリ上總國千田村称念寺歯吹彌陀如来開帳○同月ヨ
浅草西福寺ヨリ釈迦牟尼仏宝物ヲ下ス開帳○麻布一本松大法寺ヨリ大黒天 作数大師
○高福如来寺ヨリ多摩郡日吉村一石山十一面観世音開帳○宇都宮 の他二面
申堂開帳○足立郡根岸稲荷寺ヨリ蓮上人牛迎宗祖ヲ下ス開帳○吹芋
山王祭礼延引今年六月祝ヲ加ヘ○七月より永代ヲ以成田不動ヲ再
帳○伊豆子長寿ヲ以越中善徳寺ヨリ金泥大
曼荼羅ヲ招セラル○谷中大行ヨリ総ヲ大野法蓮寺ヨリ蓮上人像開帳
○牛迎國称寺ヨリ足州加殿妙國寺ヨリ日蓮上人開帳○浅草新ル所宗祖ヲ七
重親世寺開帳○浅草極楽寺ヨリ真佛阿弥陀如来開帳○十月三日書家狩田

耕山卒 名雅通称甲四郎 号遠侍ト云ヘリ ○十月亀戸龍眼寺ヨリ殊髪聖徳太子ヲ安置ス在ル郡
浅草浄谷ヨリ左ノ像ヲ

寛暦十三年癸未

二月十五日より亀戸龍眼寺ヨリ殊髪聖徳太子開帳○二月より深川玄信ヲ
阿弥陀如来開帳○二月廿六日より三月廿六日迄亀戸天満宮社殿建立成就
ヲ開帳○三月九日より押上大雲ヲ親世寺開帳○三月廿三日より田向院
ヲ上州大同山聖徳太子開帳○同廿八日より深川浄心寺ヨリ地ノ内
妙法ヲ祖師開帳○四月朝日より芝如来寺ヨリ河内壺井八幡宮開帳
○四月七日浅山町ヨリ出火数寄屋橋内門ヲ迄焼ル○六月十五日山谷鷲
田明神祭礼ヲ三ヶ町ヨリ出ス数年ヲ絶タリ初テ出ル其後ハ休ム○六月廿一日
亜家狩野祐清英信卒 号如満高四千七百石 深川浄心寺ニ葬ル ○長崎ヨリ俳諧ト号ス生年ヲ

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

より之を呉服ふいむ日を撰びて之を一枚摺を賣歩行○六月俳優荻野八重桐初て楽屋中湯ふ迄群集の儘り蜆を売ると云ふ事を始ると云ふ○八月廣東人参卒賀城渓根多く之を紙を以つゝみ之を売ると云ふ○九月朔日日蝕ありと雖も曇て見えず○十月神田佐久間町寺子屋岡田治助高麗を止めのふ暦面ふ脱せりとのふ○九月神田明神祭礼例年より延び当月執行○十九日書家篠田抱琴休卒名良貞号金渓隊人小日向今割朝鮮人参座ふ令ぜらるふ○古今相撲大全梓行木村政勝著○志道軒傳梓行風来山人著

此年間記事

日暮里金森稲荷二社の外新ふ勧請○川端一橋ふ○同黒幡花ふ焼団蓋出来る○宝暦中浅草山のと人本郷ふよりて江戸近在ふ弘法大師八十八箇所ふ令ふ○秋森

稲荷ふ宝暦九年迄隔年建ふの町より花出し絵扣幟を渡しるが其後中絶ふ○小野照崎明神ふ幟ふ絵扣幟出し絵物を出しるふ宝暦七丑年より中絶ふ○宝暦末より文化前迄ふ社地ふ芝居ふ小屋掛多し○社地ふ芝居ふ小屋掛ふ事ふ○根岸団先ふ藤の花盛の比貴賤群集多し○婦女蝙蝠ふ似せ紙ふて張る日傘ふる○裏谷稲荷ふ史事羽織潜ふ始ふる○土佐節浄瑠璃ふ三味線ふ合ふ○卜者平沢左門ふ学ぶ神祭登軍書講釈師深井志通ふ浄瑠璃ふる○卜者平沢左門ふ学ぶ神祭登軍書講釈師深井志通ふ浄瑠璃ふる○社頭大祭ふ於ふ文化六七十度なりし頃ふ滋野摺竜彩成田壽仙ふ於ふる絵扣幟ふ○歳暮ふ至ふ○旦那のねつく高業と唱て市中ふ業を賣る者なり○

深世絵師歌麿ふ妻信石川豊信ふ妻ふ○

稀平七ふ鬼王ふ妻外ふ○好事の輩古物ふ集る事ふる

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

○此時代世上の風俗そのべる 仮名本ぞろひ刊れ救荒様ものゝ行はれ 作り千石簁と那須石灰 両国山人の水滸論を別て賞せり ○茶紀逸武玉川と いふ俳書十六篇をひろめ 人の実柄とそれ川柳が柳樽も是より出 云々 ○山本静観坊といふ者下手俳義といふ紙をあつめて世に行る 載るところ 我文ぐも教戒の言そまれ 此人の墓誌十三部程あり 茶速目線ふめ 田向院ふ立りし下手俳義 刊れ 作人の作ぞこれを 下手俳義雑実集辻俳義あそこれ 三角 賤奴子 と云ふ 三面俗称 ○芝三田 ○家衣ふ更尾蕃云 ものと 立花それ家の前ま男女の石像あり 文婦の石像といふ後年 零落して 旅 ○ 宝暦中西村宣長が 玉勝間ふ 水茶 ○ 寄合茶屋 深川 ○ 操芝居盛ふ行ま 福内鬼外 浄瑠璃あり 作り出せり 竹田 ○ 宝暦中西村宣長が 玉勝間ふ 水茶 ○ 孟蘭盆ふ 編笠 ○ 孟蘭盆ふ 婦女の衣 ○ 孟蘭盆ふ 朱塗の 椀 といふ 象牙の 弁も 行 ○ 蘭人 ○ 硝子 外国の 硝子 ○ 婦女の衣 ○ 孟蘭盆ふ 編笠 ○ 孟蘭盆ふ 女子帽子 ○ 孟蘭盆ふ 茶巾 ○ 孟蘭盆ふ 婦女の衣 ○ 孟蘭盆ふ 婦女の衣

大うぢちやといふ童謡行る 吉原 ○ 宝暦中西村宣長が 玉勝間ふ 水茶 ○ 寄合茶屋深川 ○ 操芝居盛ふ行ま 福内鬼外 浄瑠璃あり 作り出せり 竹田 ○ 宝暦中西村宣長が 玉勝間ふ 水茶 ○ 孟蘭盆ふ 編笠 ○ 孟蘭盆ふ 女子帽子 ○ 孟蘭盆ふ 茶巾 ○ 孟蘭盆ふ 婦女の衣 ○ 孟蘭盆ふ 婦女の衣

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

ビイドロを薬液(くすりえき)なりとて○横山町(よこやまちょう)三丁目(さんちょうめ)秩父屋(ちちぶや)某(なにがし)誘(さそ)ひとりの工(たくみ)を聘(へい)して田舎(いなか)に用(もち)ゐる稲こきの歯(は)を造(つく)らしむ○図書集成(としょしゅうせい)一万巻(まん)康熙帝(こうきてい)の自撰(じせん)之宝暦十四年舶来(はくらい)して官庫(かんこ)へおさめらるゝより～安齋(あんさい)儒学(じゅがく)ふるくなりまゝ改元(かいげん)改号(かいごう)あるべし～

明和元年甲申　六月十三日改元　十二月閏

二月十六日朝鮮人来(ちょうせんじんらい)　正使鄭尚淳副使李仁培従事成樂仁李邦彦(ていしょうじゅんふくしりじんばいじゅうじせいがくじんりほうげん)旅宿(りょしゅく)三月六日上野(うえの)より曲馬(きょくば)なり猶(なお)人(ひと)を驚(おどろ)す○二月より同(おなじ)不動(ふどう)の開帳(かいちょう)○深川永代寺(ふかがわえいたいじ)にて栗田(くりた)に青蓮院宮(しょうれんいんのみや)の拓(たく)ある不動(ふどう)則(すなわち)祖師(そし)開帳(かいちょう)○深川永代寺(ふかがわえいたいじ)にて京(きょう)三条小鍛冶(さんじょうこかじ)宗近(むねちか)の太刀(たち)稲荷(いなり)の神剣(しんけん)霊像(れいぞう)開帳(かいちょう)○茅場町(かやばちょう)薬師内(やくしうち)にて武州(ぶしゅう)秩父郡(ちちぶぐん)山口(やまぐち)観世音(かんぜおん)奥州(おうしゅう)安達原(あだちがはら)人肌(ひとはだ)薬師(やくし)如来(にょらい)開帳(かいちょう)○田向院(でんこういん)にて武州(ぶしゅう)榛沢郡(はんざわぐん)山口(やまぐち)観世音(かんぜおん)開帳(かいちょう)○同(おなじ)不動(ふどう)尊(そん)開帳(かいちょう)○三田(みた)春日明神(かすがみょうじん)開帳(かいちょう)○浅草(あさくさ)報恩寺(ほうおんじ)古剣(こけん)丹遠治(たんえんじ)播随院(ばんずいいん)感得(かんとく)開帳(かいちょう)○浅草(あさくさ)報恩寺(ほうおんじ)奥(おく)の奥(おく)なる本尊(ほんぞん)毘沙門(びしゃもん)尊像(そんぞう)を拝(はい)せしむ○二月廿日夕七ツ時(どき)神田(かんだ)新旅町(しんたびちょう)より出火(しゅっか)小風(こかぜ)烈(はげ)しく蠟燭町(ろうそくちょう)多町(おおまちょう)堅大工町(かたおおくまちょう)新石町(しんいしまちょう)鍋町(なべちょう)紺屋町(こんやちょう)西側(にしがわ)皆川町(みなかわちょう)永富町(ながとみちょう)松下町(まつしたちょう)臺所町(だいどころちょう)三河町(みかわちょう)三丁目(さんちょうめ)半(なかば)より北(きた)大小路(だいしょうじ)迄(まで)焼(やけ)る町数(まちかず)一百廿(ひゃくにじゅう)町(ちょう)焼死(やけし)人(にん)四人(よにん)怪我人(けがにん)多(おお)し○二月中旬(にがつちゅうじゅん)平賀鳩渓(ひらがきゅうけい)韓人(かんじん)逗留(とうりゅう)のうち平生(へいぜい)大小便(だいしょうべん)を禁(きん)ぜしむ○二月中旬(にがつちゅうじゅん)平賀鳩渓(ひらがきゅうけい)韓人(かんじん)逗留(とうりゅう)のうち平生(へいぜい)大小便(だいしょうべん)を禁(きん)ぜしむ○二月廿日夕七ツ時(どき)神田(かんだ)新旅町(しんたびちょう)より出火(しゅっか)小風(こかぜ)烈(はげ)しく蠟燭町(ろうそくちょう)多町(おおまちょう)堅大工町(かたおおくまちょう)新石町(しんいしまちょう)鍋町(なべちょう)紺屋町(こんやちょう)西側(にしがわ)皆川町(みなかわちょう)永富町(ながとみちょう)松下町(まつしたちょう)臺所町(だいどころちょう)三河町(みかわちょう)三丁目(さんちょうめ)半(なかば)より北(きた)大小路(だいしょうじ)迄(まで)焼(やけ)る町数(まちかず)一百廿(ひゃくにじゅう)町(ちょう)焼死(やけし)人(にん)四人(よにん)怪我人(けがにん)多(おお)し

○今年五月より旧和六年九月まで両国橋村左衛門普請成 享保の末より会所を設けて再修する迄 橋の長さ幾百間といふ事なりとぞ

蓮華寺を建る 寺号は三十三間堂の棟木やまと和尚勧めと いひしものゝ名を得て後に普請場と称す

椀飯大神宮改大久保豊前守奉行やしきを稲荷社赤坂群集す 諸人止む ○深川三十三間堂再建 宝暦十年 炎後建立 ○七月九日より十月十日迄護国寺にて秩父三十四番札所観音供 ○秋加茂社内馬場を野辺又畑ほりてならす 暮とあづく

九月十三夜 ○十月廿二日浄瑠璃 語元祖富本豊前掾 ○十月廿三日坐再建 宝暦十年 名主死 早九年 修院より 〇十一月琉球人来 正使 漢谷山王子 ともつとよぶ 載るを一ツ ニツなぐ

九月十三夜把後玉杜浦とよむ

秋無なんとを友とそ有るべき月ゝ

不二 人とうりかくしんとの茶ふみあるうの雪ぬらさえ

祝の心を 波風もをさまる君の治代なれハとうたふる日の本住里

○十一月廿八日俳人浅井春宝卒 七十二才 党徳寺に葬る

○十二月町火消の内浅曲輪近辺十三組一統吐水を渡しめる 生際の組八代目 後年ふ業とす

○十二月廿三日夜五半時神田関口町より出火ニて神田町ゝ数焼明七ツ時鎮る

○同十二月十七日昨六時浅草田町より出火ニて大川端聖天町迄数焼せり

明和二年乙酉

二月日暮里妙隆寺太神宮奉地勧迎鬼子母神祖師開帳 ○谷中三運寺

彩云を助と称しるこゝろ　　名ふるもうれしき
志乃彩が奇とそほゝゑ　　辞世　赤とうぬろと生れさ月日さへ西へ〳〵と急もやル

又同時ふ濱野陽軒という溝渠師も世よ彩まもし生男基蔵父の名を継て
舌耕せり○四月日光山御祈忌万部御法会○疱瘡村〳〵鉄線を張さしめ
らる○六月より平井浦を溝つという若深川御蔵の前より永代まで二尺余広さる階武を築立新ふ廿万評儀の地を実に翌成年七月廿日より埴を焼始むこの所を平井新田という沼沢よりこれ物の人駄ゐ安永ふいくらるも多く止ら　味噌醤親の如くなりて大抵各家料理抔も出来て彩まこうう
朝日より田向院より梅田村不動尊開帳○七月今三田春日の社地元三大師開帳○四日より永代まで
ゆく踏及富士浅野摩茶苔我八幡宮　拡成時製　神像玉渡明神　虎御前　開帳○四日
日より田向院より梅田村不動尊開帳○七月今三田春日の社地元三大師開帳○四日より永代まで
茶供○八月三日大風雨深川辺甚敷家上へ水変る○八月十六日二条判官兵衛

死（八十余才）○芝浦より二丈余の魚上る後両国橋畔まで見世物と云色白く黒子
数の数之名をマンボウと云○九月五日強通用始る○九月七日儒師昌井嶰州
卒（名孝先称郡右文之輔茶禅号不葬）○九月両隊続き神田明神祭礼九月廿三日ふ渡る神楽渡
る石の町〳〵横町の〳〵切幕を張ひふ俗之為年より棚を結ふるふ成まり
○十月廿五日儒師木村遠菜卒（名貞賛字君懋日号涼台号不葬）○十月神田今川橋小左右火除
土手再興○十二月幷田佐久る町ふ医学館建（多紀氏基主）○十二月四日昼時日向
嶽より出火ク七時迄残る家焼多し○十二月廿九日書家関思恭卒（行年六十
号風岡称浮内出石川
称名寺ふ葬ル

明和三年丙戌

二月朔日より永代寺ふて三州伊賀村八幡宮本地薬師如来開帳○二月
廿日より浄瑠璃前薬師院ふて三及碧海郡上重原村通照院弘法大師開帳

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

○二月廿九日堀町繁右衛門の店より失火して南隣の家居数軒焼ぐ大風ふしも焼廣がり囚獄の辺まで至る○三月十二日下谷溝に家より出火車坂下まで焼亡せり○四月朔日より日蓮不動尊をあて下野國岩船山地蔵尊開帳○同日より 祐天寺弘誓院光徳六條開帳○四月朔日より田向院まで大和宮開帳○大久保法善寺七面明神開帳○四月朔日より田向院まで大和荼毘峯光寺天満宮本地十一面観世音開帳○谷中宗林寺 舟形弘二寺号 鬼子母神祖師天満宮開帳○幡ヶ谷荘嚴寺 薬師日光月光 郡國分寺薬師日光月光不動尊開帳○芝松宮社地より武州多摩郡國分寺薬師日光月光弁財開帳○七月六日浜町小日向小石川本所の辺にて水害場まり○霊巌島埋立地成る俗に築島とよぶ○七月朔日より田向院まで川崎真福寺薬師如来開帳○八日より田向院まで神奈川親福寺薬師如来開帳○

大神宮佛教西来寺 総て茅葺宝形なり 開帳○八日より浅草寺観音堂より奥手原八月一日 開帳○八日より浅草寺境内にて紀伊加太淡島明神本地虚空蔵菩薩開帳○護國寺ふく殺河留守富士山宗心寺より来迎二尊佛開帳○浅草榧寺にて甘楽郡白井源空上人廿五菩薩の来迎の像を載せ号より毎年盛の比参詣○施福寺薬師如来開帳○

○施福寺境内池辺小牧様の萩を載せ号より毎年盛の比参詣○施福寺境内池辺小牧様の萩を載せ号より毎年盛の比参詣遊覧の地と成る 寺阿曇育師の親ふけ時代より植置る萩を載て萩を観せしめしと云ふ○十一月六日徳人御茶屋敷幸一日ふ五平右衛門より五ヶ年之間 五十六才弘誓院にて薨ず墓代々菩提寺増上寺

明和四年丁亥 九月閏

二月元日朱八刻より申刻迄日蝕二分○四月朔日より深川海辺新才天開帳○同日より田向院薬師才天開帳○四月より月毎

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用

開帳○四月より谷中幸光寺祖師開帳○猿町鞭子宮寂昭る元三大師一英像
○和泉侯の屋下の官舎より火災ありて系統多し○関東川々氾濫あり
○四月九日駒形町より出火浅草観音雷神門焼る二神像金龍山の額も
焼ず○真先神明宮の地なる辻大納言家長卿御石碑あり○菅神
の像をとり勅請なり○四月十二日傳師赤松左慶卒名弘称三平○六月八日傳
師服部仲英卒名雄南郭の○七月廿二日傳師大藪残塘卒名良兵称久右衛門
七月廿四日神陰流剣術師長沼四郎左源つ國々を卒八十余三回
廻国する事○八月三日画人
波辺溪水卒年八十余名従林吉義庶市名称する事八男を雲對と云るも画を善くす文政中卒せ
尋て町より出し絵物を出し神楽祢楽坂の御旅所一変しまつ八、生仏来中絶せ
○十一月晦日傳師赤松法師卒名蒿卿太度の父之
庶市名称する事○秋繋切る○十二月五日狼
のわ谷ふ六、金ふ十二枚の通用ふ○十二月書家飯田百川

卒名規溪称孫次郎　廣渓の門人○一ノ瀬重其昌を学ぶ近世
西久保青就るふ葬　董帖を摹するもの八人より始ると云

明和五年戊子

正月廿七日英一蝶が養子一舟卒称弥三郎名信経号東窓為
二来校業教る中頭来院る葬八○二月廿日より
王子権現五子稲荷の神開帳○二月三都の乞浄土真宗の怪しき法儀
を禁ひしのを刑せらる俗まおろそ門徒と
ゆひ八これあり○三月千駄ヶ谷聖福寺如名物観
世音開帳○三月十六日より永代ある事大原野春日明神開帳○三月
廿日より三田八幡宮開帳　灵宝ふ令れ八これみと
○田向院より尾州野間の門海大
御堂地義ふ開帳○三月大師河原村百姓大部九勝つ砂糖を製し弘む製法
せ文る名ふ一紀州名ふ圖令おいりの八ようふ紀州府城の西溪雑賀孫町ふる雑賀孫何某製
法を伝へて始て在田郡小豆島村の田畑ふ甘蔗をうゑそこれを製煮しける今法ふ製ゐるりの彼ゲ
伝を受ざるあるしとの一製法のふ平賀源内ふ砂糖ふ訴り那覇の物とのくらゐふるしょう慶堺法ふ
より笑ふ弘法ふ祖師開帳○四月六日暁八つ時吉原江戸町弐丁目より出火大

風ふき塵砂しばしば立ち十軒道より北焼亡ありしが社のうつぐち一仮宅へ並木町今戸橋場山谷新吉越一出火にて百日のうち高輪せり〇六月雲絶残通用始まる〇六月九日島越明神祭礼神輿を渡し雑踏和製衣を命せられ三都ともに集まりしゆゑ〇六月十六日夜四つ時五分大雨八つ時半頃より晴る

雑子町より出火練塀を焼く〇六月十六日夜四つ時五分大雨八つ時半頃より晴る

〇九月十八日寄人村田妻郷年二十才妻海の兄なり深川本誓寺に葬る

明和六年己丑

正月五日書家宮嶋融牛迎来町名云融牛迎来町に住まる葬れり

谷安寺祖師開帳〇谷中本寿寺祖師開帳

〇三月十日より能戸天満宮内神楽越後高田春日明神本地観音菩薩不動尊開帳〇三月より浅草五重塔修復勧化者開帳〇押上春慶寺普賢井開帳〇四月朝日永代寺四国琴弾山の写阿弥陀如来天地不動尊ともに開帳〇四月七日より田向院あさく川口善光寺阿弥陀如来開帳〇浅草観音堂より出火駒形まで奥州二本松境石寺安達原鬼神退治朱光坊後佛親世寺開帳〇四月十八日より六月八日迄浅草観世音開帳〇五月朝日より浅草雷門より出火駒形まで常陸鹿島廣徳寺薬師如来開帳〇同日より神田花房町原村梅雲寺三宝荒神開帳〇七月廿一日寄人村田妻道年深川本誓寺の女なり〇七月下旬より八月上旬迄孫星現ず長救丈等の如し猶星ともいふ乳星ともいふ〇八月廿六日未刻より大風雨雷鳴あり人家を傷損す深川三十三間堂倒る〇七月廿日日

算術師長部稠栗年孫左衛門妻なり牛込本誓寺に葬る〇九月十日小石川氷川明神祭礼

839
8
62

町〻より出し絲物を出し、宝暦休む ○十月風邪流行し、老幼男女をいはず一大厄運にて死する者多かりし、程のことなり ○十二月官儒青木崑陽先生卒 七十二才号草廬称文蔚と云 薩摩芋を作り始めし人なり 甘藷先生といふ 日蔭茶漬の後の山にあるその碑文左の字せり

西面甘藷先生墓とあり右の方に

享保二十年青木敦書蒙ㇾ命種ㇾ甘藷ㇾ因ㇾ人呼ㇾ曰ㇾ甘藷先生ㇾ甘藷流傳使ㇾ天下無ㇾ餓人是ㇾ願也今作ㇾ斎塚ㇾ書ㇾ石ㇾ曰ㇾ甘藷先生墓ㇾ

左の方ふ云

君諱敦書字原甫源姓青木氏号ニ昆陽一元禄十一年戊寅五月十二日生ㇾ明和六年己丑十月十二日終ㇾ寿七十二葬ㇾ于下目黒村別野南一

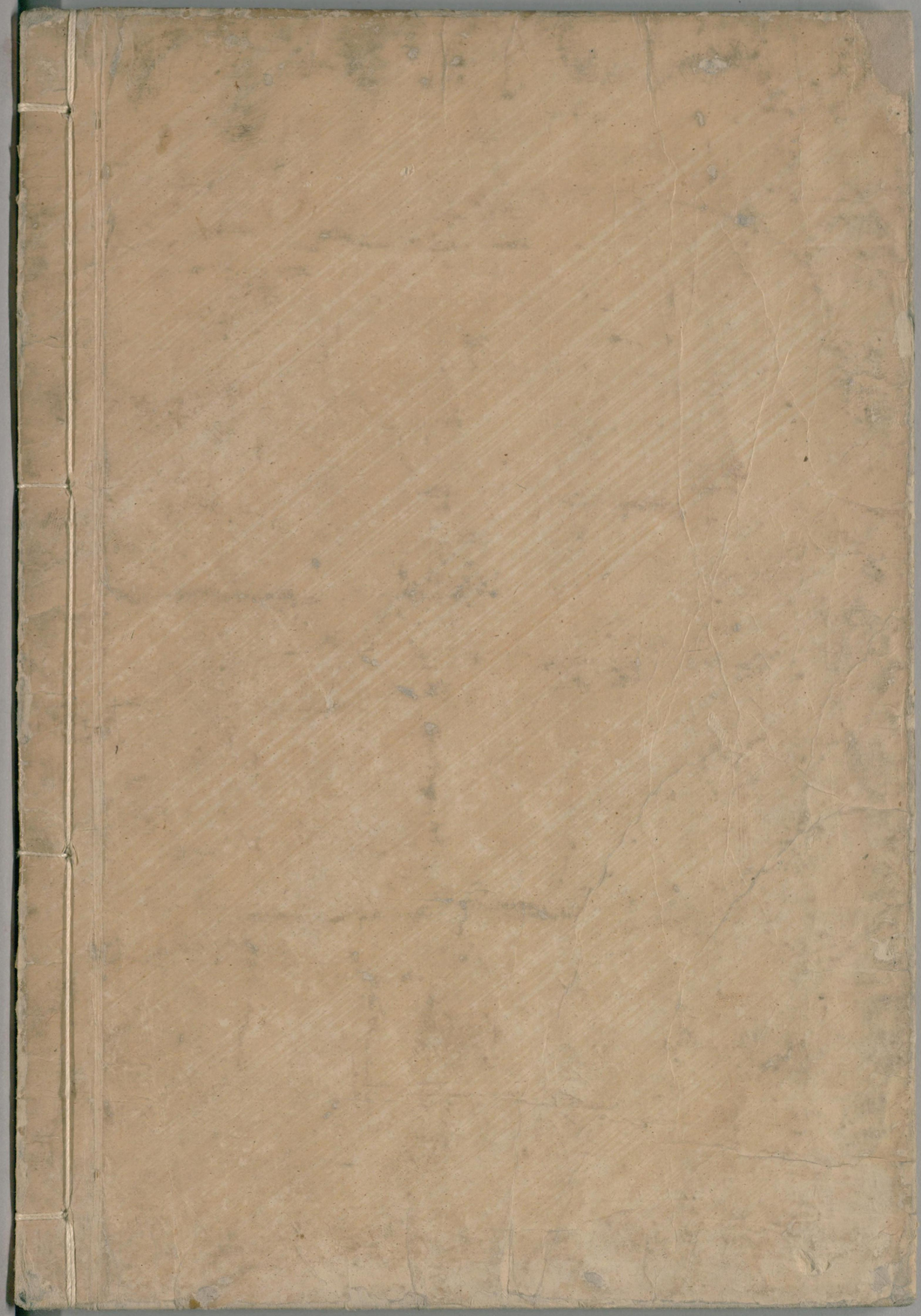
君爲ㇾ儒ㇾ嘗ㇾ葬ㇾ地ㇾ于此一故也

○十月廿六日金雕工濱野政隨終、七十四才 称太郎と云

○十月晦日加茂真淵翁江戸ふ登る 七十三才 小川氏海辺中少林院ふ葬ル

武江年表巻之五終

国立国会図書館　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『武江年表 8巻』 請求記号 839-62

ガラス使用